

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部外国人留学生海外推薦入学制度を改善する（全学で検討されている韓国の高校との推薦入学制度導入の具体的検討、多様な国籍の留学生受け入れを促進する推薦対象高校の拡大の検討）。	→留学生の受け入れ対象国数（現状の3カ国を、5カ国・地域以上に拡大）。	D
2. 留学生と日本人学生の交流を促進する留学生懇談会などを充実させる。	→外国人留学生と日本人学生の懇談会・懇親会の開催回数（年間2回開催）。	A
3. 海外ゼミとのゼミ間交流を促進させるための制度を創設する。	→海外の大学と交流ゼミ数（毎年1ゼミ以上の交流の実現）。	A
4. 経済学部生の交換留学・認定留学等の拡大を図るため、外国語の授業改革とともに、専門教育における外国語授業の拡大や、留学生に対するカリキュラムの弾力化、留学に関する積極的な情報提供などを行うものとする。	→TOEIC600点以上の学生数（600点以上を獲得する2年生を30人以上）。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) 1. 外国人留学生の受け入れ国は2009年度は3カ国である。（中国、韓国、フィンランド）多様な国籍の受け入れを行うための推薦入学制度の検討は開始していないが、受け入れ側としての学部学生の英語力対策（TOEIC受験および語学力を高める姿勢）は継続している。 4. 学部学生のTOEIC-IPの平均点は2年生で415.64点である。600点以上獲得者数は25名である。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 2. 外国人留学生試験で入学した1年生との懇談会を1回開催、全留学生を対象とした懇談会を1回、計2回開催した。また大学院生TAによる授業相談の時間には留学生TAも担当し、学部留学生の相談窓口としている。 3. 海外の大学とのゼミ交流は、延世大学(韓国)、シンガポール国立大学との交流があり、ゼミ生を連れて、渡航するなど交流がある。2009年度は同大学より来日し、エコノフェスタにも参加した。
☆ その他	

## 《特定6項目データ》

本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	73	81	82	73	73	
			交換	人	2	5	3	6	8	
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	%	2.6	2.8	2.8	2.5	2.5	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	10	8	14	15	9	
			短期	人	20	23	33	40	19	
		在籍学生比率	長期	%	0.4	0.3	0.5	0.5	0.3	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.7	0.8	1.1	1.4	0.6	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)		長期	人	0	0	2	0	0	
			短期	人	7	7	2	3	1	
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		長期	人	0	1	1	1	3	
			短期	人	10	13	7	6	43	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

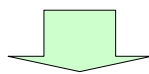
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	留学生と日本人学生の交流を促進する留学生懇談会など。
その他	



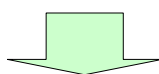
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	留学生にパートナー制度についてのアンケートをとり、経済学部独自の留学生とのパートナー制度の設置、学習面やキャンパスライフ面でのメンター機能の強化などの検討をおこなう。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	学部外国人留学生海外推薦入学制度の改善。
★小項目7.0.2	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	入試部・CIEC等との連携により、外国人留学生海外推薦入学者の多様化に向け、推薦対象高校の拡大を図る。
★小項目7.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○留学生との懇談会や海外の大学とのゼミ交流は高く評価できます。今や経済は国内だけではなく国際的な視野も必要な時代であり、学生の目を海外に向けるためにも海外派遣制度の積極的な活用が望まれます。

## 【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

○充実した国際教育の取組が評価できます。目標の2はA評価ですから、効果が上がっている事項をさらに伸長させる方策を具体的にし、新たに目標に加えられ、日本人学生と留学生との融合がさらに高いレベルで行われることが期待されます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 1. 多様な国籍の学生の受け入れを促進すること 2. 在学生の海外留学経験の充実を図ることの2点を経済学部国際交流の方針としている。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
